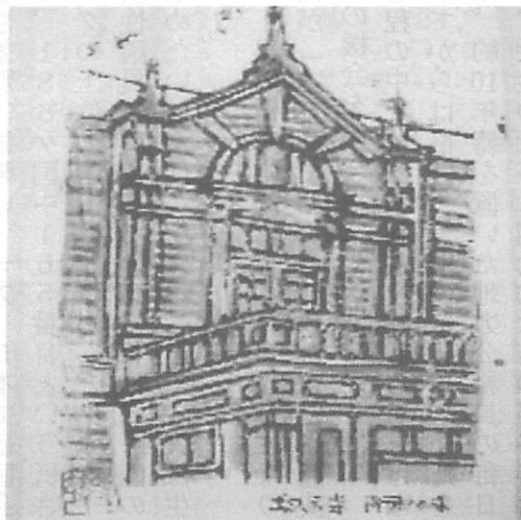


男女平等からジェンダー平等へ

まずは自己変革



「私の街角 岩手大学」 版画 對馬範彦

1995年、戦後50年の節目の年に北京で開催された「国連世界女性会議」には190か国から5万人もの女性が参加してジェンダー平等を目指す取り組みの指針が採択された。世界中からすごい女性が集まった映像に期待感があったが、自覚がないまま時は過ぎ、来年は採択から30年の節目になる。その間、世界では女性議員の割合が11・3%から26・9%に増え、50%を超える国が6ヶ国になり、

平和・ジェンダー平等を求めて

～歴史の岐路に立って～

盛岡市 伊藤 慶子

「男だから」「女のくせに」とつい言ってしまう、自分に沁みついている差別意識にはっとしてしまいます。「ジェンダーを見つめることは、自分の来し方を奥深くまで探り、問い直すことであり、日本社会に巣食うを性差別や不平等を変革するとともに、大きく自己変革にも取り組むこと」という岡野八代同志社大教授の言葉を重く受け止めたいと思います。『民主盛岡文学』70号の特集「女性が語る―歴史の岐路に立って―」に掲載された伊藤慶子さんに加筆・訂正して寄稿していただきました。



発行所
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034東京都文京区
湯島2-4-2全労連会館
因陀同盟岩手県本部
〒020-0013盛岡市愛宕町
17-4 牛山増夫方
T/F 019-623-8648

▼平和・ジェンダー平等を求めて 盛岡市 伊藤
慶子 ▼連載「知っておきたい30人③鶴彬」お知
らせ 「東北ブロック交流集会」「全国女性交流
集会」▼沖縄慰霊の日平和の詩「これから」宮古
高校3年 仲間友祐

一寸一言。

米がない!!

「世界で最初に飢えるのは日本」この言葉が現実味を帯びてきた。東大大学院教授の鈴木宣弘教授の著書である。食

糧自給率はカロリーベースで37%、種と肥料の海外依存度を考慮したら10%にも満たないと。米を作るな、乳を搾るな、時給10円は農家の気力も体力も奪っている▼紛争に気候危機、金を出せば食糧を買える時代ではない。ミサイルは命を奪うばかりで私たちの飢えを救いはしない。アメリカの言いなりに農産物の自由化を進めトマホークを買っている場合なのか▼国のため、国家のためにと述べまくる総裁候補たちの眼中に、スーパードに米がなくなり物価高騰に頭を抱える国民の姿はない▼鈴木教授は言う。安くても危ない食品を避け、少しでも高い地元の安心・安全の食品を買う、農家と一体化した消費者の行動が世の中を変える。政治に金がかかると献金を当てにする政治家はいらない。国民の命を守るリーダーが求められている。政治を変える総選挙に打って出よう! (D)

女性議員のランキングでは欧州中心から新興途上国の「グローバルサウス」に移行している。民主主義の見本のように言われている欧州でも性差別は根強い。一方、日本では国会議員の割合が10・3%で、186ヶ国中165番目という低さだ。女性議員のランキングの上位の国では、ほとんどクオター制を導入し、計画的に女性議員を増やしている。日本でも国の制度にして早い対策を求めたい。女性が増えることで政策は生活者の視点に変わると思う。

漸くジェンダー平等が日常的に言われるようになり、性暴力をはじめ、女性が「本音」で語れる時代がきた。歴史的に大きく動き出したこの機会をあきらめずに前進させたい。

自分の生育過程の中では、不利益を感じることはなかった。しかし、就職してからは格差・差別の毎日で、矛盾を感じながらの毎日だった。約10年籍を置いた地方公務員の毎日はお茶くみから始まり、女性の仕事は補助的なものが多かった。主張を続け、研修会参加が認められるようになり、もう少し長く仕事をしていたら、女性参画の余地はあったと思う。国家公務員の夫の県を超えての転勤で女性である私のほうが仕事を辞めてしまった。それが当たり前の時代で、違和感はなかった。今は国家公務員や企業でも女性の単身赴任のニュースを目にするようになり、隔世の感がある。しかし、3月に岩手日報に載る地方公務員の管理職には女性の姿は少ない。「あくまで、まだ」とがっかりしながら紙面を見ている。

女性の所得は男性の7割の格差も問題だ。消費者運動を続ける中で「年金問題は女性問題」と訴えてきたが、今、物価高で年金の改定が物価高に追い付かず、低い年金に追い打ちをかけて生活苦の高齢女性が増えている。そもそも年金制度の組み立ては家長制の下で「扶養」が前提で、



食わせてもらっておこぼれの範囲内の年金額になっている。国民年金は男性を含めて低い年金で、老後年金だけで暮らせない設計である。設計の組み直しと最低保障年金の導入をみんなで声を出していきたい。

女性は非正規でパートの考えが定着してきた。男性の扶養の範囲内での就業が当たり前の考え方に変化がみられてきている。男性も含めて「非正規」の問題は克服したいと思う。

次に気になるのが「性暴力」の問題だ。

長く男性は「性衝動」に勝てないといわれてきたが、それは脳の中で「男優位」「力あるものが支配する」ことが植え付けられているためで、理性によって解決出来ると研究されている。性暴力に異を唱える女性が増え、社会的な制裁が進んでいる。自衛隊や取材女性記者に対しての性暴力、ジャニーズの問題の告発の中で、性暴力が人間を深く傷つけることが見えるようになった。



国賠同盟の活動の中でも治安維持法下捕らえられた女性が誰にも話せないような凌辱を受けている。隣県の阿部和子さんも1931年、東京女子高等師範在学中に「賃労働と資本」の読書会に参加して検挙され、活動を辞めることを拒否して、それから3回逮捕され拷問を受けた。戦後は民主的な保育運動を貫き、官城の女性に尊敬されていたが、阿部さんはどんな拷問を受けたか決して語らず独身を貫いた。晩年「あなたたちが覚悟をして聞けなら話してもいい」と言われたが、聞く方の覚悟が固まらずに叶わなかった。どんな凌辱を受けたのか想像に難くない。「慰安婦問題」をはじめ戦争に向かう時や戦時下での性暴力はさらに過酷だ。

最近では、見通しのない辺野古軟弱地盤への土砂投下が続く沖縄では、続く米兵の性暴力が問題になっている。被害にあっ



参加費は県本部が補助しますので、一人3000円をご負担ください。交通費については支部・県にご相談下さい。なるべく乗りあわせて行きたいと思えます。参院補選で忙しくなりますが、皆様誘い合ってご参加ください。

た少女たちの絶望感とその後の人生を思うとやるせない。事件多発の根底には安保体制があり、根本解決は基地や軍隊の根絶以外にはない。沖縄の女性たちも立ち上がっているが、私たちも一緒に頑張りたい。

ひとつたび戦争が起きると武器を持たぬ女性や子ども・お年寄りが真っ先に犠牲になる。

日本でも「新しい戦前」の状況が進められ、米国との安保3文書の締結、沖縄の南西諸島への自衛隊配備、異常な大軍拡による軍事費の増大等、すでに戦時体制に入っていると警鐘がなされている。自衛隊勧誘へのなりふり構わぬ行動も徴兵制への可能性を感じさせる。

世界的にもロシアのウクライナ攻撃、イスラエルのガザ攻撃等戦時体制が解決する見通しはなく、話し合いも不発に終わっている。

各国の内戦も含め、戦争がある限りジェンダー平等は遠のく。平和を求め、「戦争反対」の行動を続けたい。

時代は進んでいるように見えるが、アフガニスタンの女性蔑視等揺り戻しがある。せっかく男女の枠だけでない人間としてのジェンダー平等が世界的に広がっている今、私たちはそれを進めるために行動したい。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

第32回 東北ブロック交流集会 in 宮城

とき 2024年10月15日(火)13:00(受付12:00より)~16日(水)12:00

ところ 秋保温泉「リゾートホテル クレセント」

仙台市太白区秋保町湯元行澤 1-2 TEL 022-397-3111

参加費 1人12,000円(宿泊・食事なしの場合、1人1,000円)

個人負担3000円 ※夕食のみの方はご相談ください
(差額は県本部で負担します。)

ぜひお聴きください

15日(火) 記念講演 (13:30~14:40)



“治安維持法100年と 山本宣治と東北”

えいじま たみお
講師 永島 民男 さん

治安維持法同盟中央本部事務局長(新)
東京山宣の会会長 歌人
前全国私教連中央執行委員長

**16日(水) 特別報告
(8:35~9:05)**

村口 至さん

(坂総合病院 名誉院長)

『平和を求め戦時政策と
闘った医師人生
~坂猶典と坂病院』

オプションツアーにご参加を!

「仙台北山五山」めぐり

- * 千葉卓三郎の記念碑⇒資福寺
- * 高橋とみ子の墓⇒秀林寺
- * 坂猶典の墓⇒日浄寺

16日(水) 12時解散後...

(車で10分) 龍鳳(民商・ラーメン店)

で食事⇒茂庭台・仙台北山五山経由、北山5山へ(約40分)⇒秀林寺・資福寺・日浄寺(約1時間)⇒午後3時解散予定

要予約

参加申し込みは 各県本部へ (10月5日最終締切)

◆ 電車で参加予定の方は各県本部にお知らせください。

知っておきたい30人

③ 鶴 彬

【連載第3回】

『新しき明日をめざして』解説編(24) P 48

反戦川柳人鶴彬の墓は盛岡に

高粱(こうりゃん)の実りへ戦車と靴の鉾
屍のぬないニュース映画で勇ましい
出征の門標があつてがらんどうの小店
万歳とあげて行つた手を大陸へおいて来た
手と足をもいだ丸太にしてかへし
胎内の動き知るころ骨がつき



この6つの川柳は鶴彬が特高警察に捕まる直前に川柳誌に発表したもので、活字になった最後の作品になった。鋭い反戦川柳を発表したのは1937年(S12)年11月。7月には盧溝橋事件があり、日本は中国への全面侵略を開始している。12月には南京を占領し、大虐殺が行われている。まさに日中戦争の真つ只中でつくられた。

反戦川柳で知られる鶴彬・実名喜多一二(かつじ)は石川県かほく市の出身だが、縁あって墓は盛岡市の光照寺の墓地にある。盛岡市で染物屋をして

いた兄孝雄が建てたもので、鶴彬の両親も一緒である。

鶴彬を世に出すために全

作品の収集につとめ、『鶴

彬全集』をまとめた東京の

川柳人・一叩人(いっこう

じん) (命尾小太郎) が鶴

彬の墓を探しつづけて盛岡

市にたどりついたのは1977年のことだった。「ここにいたのか。10年かけて探したんだよ」と墓にすがって泣いたという

(兄孝雄の妻多鶴談)。↓鶴彬の項

兄孝雄の末人多鶴は、鶴彬生誕100年、没後71年の20

08年2月、「鶴彬は生前、警察に追われて『殺されるかもしれない。助けてくれ』と云って、兄を訪ねて来たことがある」と語った。それは1936(S11)年正月のことだろうと思わ

れる。同年1月発行の『蒼空』に次の3句がある。

空き家がありあまるといふのにベンチベンチの野宿

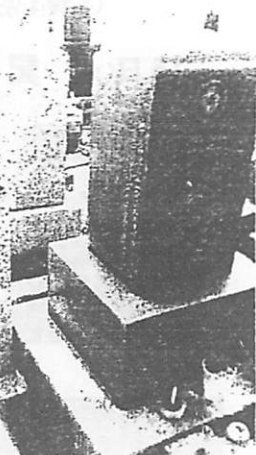
けふのよき日の旗が立てあぶれてしまふ

ゴミ箱をあさらせるため産みつけやがった神様の畜生

人びとが正月を祝っているのに、ベンチで野宿し、ゴミ箱をあさっていたのは鶴彬であらう。

そのことがあっただけに、警察から鶴彬死去の報せがあったとき、兄孝雄は「やはり殺された」と思った。弟の遺骨を抱いて盛岡に帰る列車にも、埋葬するときも、特高警察に監視されていた。兄孝雄の末人多鶴は、「夫は酒に酔うと、『一二は赤痢菌を吞まされて殺された』、とよく云っていました」と

鶴彬の墓



語った。抑えきれない怒りをこめた兄の言葉である。

鶴彬はよくよく岩手とは縁が深い。

①啄木歌集を愛読し、友人への手紙に「失職すると啄木が兄のやうに思はれます」と書くほど「啄木を慕っていた。弾圧のため川柳誌が発禁となり、鶴彬本人も捕らえられたため未完に終わっているが、評論「井上剣花房と石川啄木」もある。歌集だけでなく、日記も評論も手紙も、当時出版されたものはすべて読んで研究している（註1）

②1981年に「手と足を」の句碑が川柳人によって盛岡市松園の観音墓地に建てられた。現在は菩提寺の本町通りの光照寺の墓地に移設されている。



(1982.9.14 建立)

③その翌年、遠野市上郷の慰霊の森に「手と足を」の句をふくむ100句を刻んだ反戦川柳碑が建てられた。

④母寿々の姉と妹が事情は不明だが花巻市と一関市に嫁いでいた。兄孝雄が岩手に来たのも関東大震災で東京では暮らせなくなり、染物屋をしていた一関の叔母を頼つてのことだったなど。

盛岡の喜多家には、鶴彬が来盛したときに持参したと思われる、井上剣花房直筆のある掛け軸があった。剣花房、鶴彬、一叩人。3人の川柳には強い絆と明日への希望がこめられている。

黎明の太気の中に開く花
暁を抱いて闇にある蕾
舊未だ暁を見ず綻びず

剣花房
鶴彬
一叩人

いまは県内の川柳人による碑前祭と、鶴彬の志を学び、語りつぐようとつくられた「鶴彬を語る盛岡の会」と治安維持法賠償

同盟岩手県本部が秋のつどいを命日の9月14日に、春のつどいを3・15弾圧の日に因んで墓前でつづけている。

註1 Ⅱ 評論「井上剣花房と石川啄木」には啄木の「歌集」「評論」「日記」「書簡集」も実によく読んでいて、評論「食ふべき詩」や「時代閉塞の現状」のこと、啄木が「自分を社会主義者と呼ぶことを躊躇してゐたが、今ではもう躊躇しない。」と友人に宛てた手紙のことも出てくる。さらに中野重治や渡辺順三・宮本顕治といった人たちの文芸評論も学んだうえで、啄木論を展開している。

鶴彬

名簿編 P142

実名一二（かつじ）。1909（M42）年1月1日石川県高松町（かほく市）で父松太郎・母寿々の3男に生まれた。15歳で川柳をはじめ、大阪に出て自由労働者として底辺の労働を体験したのを契機にプロレタリア川柳をめざした。評論「川柳は一つの武器」に「川柳は必死な生き方の一つの方法であり、その生き方をさへざる敵を刺す一つの武器でなければならぬ」とある。

鶴彬は二度、治安維持法で検挙された。最初は1930（S5）年1月金沢歩兵連隊内で共産青年同盟の機関紙「無産青年」が発見され、「赤化事件」で軍法会議にかけられ、大阪の衛戍監獄に1年8カ月収監された。二度目は1937（S12）年12月「手と足をいまだ丸にしてかへし」「胎内の動き知ること骨がつき」などの鋭い反戦川柳を川柳誌の「川柳人」に発表していたことから、「川柳人」事件で警視庁に検挙された。翌年野方警察署内で赤痢のため、1938（S13）年9月14日絶命した。29才9カ月。

鶴彬が活動できた期間は小学校を卒業するまでの14年間と軍

隊生活の4年間を除くとわずか10年であった。その間に川柳1044句、詩14編、評論85編をのこした。盛岡市大通りで染物屋をしていた兄孝雄が遺骨を引き取り、特高が監視するなかで光照寺の墓地に葬り、翌年の新盆を前に墓を建てた。父・姉・一二の順に名前が刻まれ、いまは兄も再婚した母も一緒である。

重態の鶴彬を見舞った北上市の長谷川英夫のこと

「反戦川柳人鶴彬を語る」2009年3月№2

牛山靖夫記より一部抜粋

鶴彬とは木材通信社の同僚であり、鶴彬が亡くなる直前に見舞った人に長谷川英夫がいる。豊玉病院での鶴彬の状態について、『鶴彬全集』にある絶筆となった渡辺一郎宛の書簡には、こうある。

■（発信スタンプ）昭和13年8月25日午後4〜8時 淀橋（官製ハガキ）

市川市八幡町二二八 渡辺一郎様

淀橋区柏木町 豊玉病院内 喜多二一

啓 赤痢を得て表キへ入院してゐます。昨暮十二月三日以来漸く得た解放です、それで大変申兼ねるのですが、病院代を支払ひかねるのですが、支給十五円ほどお貸し願へれば幸いです。丈夫になればきつと働いてお返しします。草々

■（発信局スタンプ）昭和13年8月29日前（8〜12時 淀橋）

本所区大平町四丁目九ノ一 青木染工場内 渡辺一郎様

昨日御速達下さいましたお金うけとりました。感謝にたえません。発病以来重湯と林檎の汁で細々と命をつなぐのみです。いづれお礼は全快の上で親しく御拝眉の上で。草々

こうした中で重態となった鶴彬に、警察は近親者以外の面会は認めなかったが、長谷川英夫は面会している。その時の様子が、岡田一杜・山田文子（鶴彬の妹）編著『川柳人鬼才鶴彬の

生涯』に、こうある。

木材通信社の同僚であった長谷川英夫はどう口実をもうけたものか、面会しているが、彼が1950（S25）年1月24日『アカハタ』紙上に発表した小文（「ジャモの国」と斗った詩人）に次のように記している。

（約半年余り、私は彼の消息を知るすべもなく心配していたが1938年の夏頃、秋山清君が突然、鶴が赤痢で豊玉病院に入院しており、私に会いたがつていとつたえてくれた。監視が厳しいのでわたしはコッソリ病院に会いにいった。

さむざむとした共同病室の一隅に、あの元氣一杯であった彼が全くゲツソリ死人のように横たわっていた。

彼は非常に喜んで、骨と皮ばかりの手で強く握手してくれた。

「ずいぶんひどかったろう？」

と、私は周囲に氣くばりながらソツときいた。

「うん、ひどかった」

と一言、彼は悪逆非道な警察のゴウモンに対する憤りを面にこめてボソリと答えた。

ろくろく声も出ないほど衰弱しきっていたが、彼の眼、彼の少ない口数の中に以前と少しも変りない徹底した階級意識と激しい斗争欲があふれていた。いかなる拷問もいかなる病魔も、彼の階級意識の一片だについて切り取ることができなかったのだ。〜（沢地久枝著『昭和・遠い日近いひと』の「反戦川柳作家鶴彬」にも、長谷川英夫の『アカハタ』記事の一部が紹介されている。日付は1月25日とある。）」

長谷川英夫については、日本救援会発行の『解放のいしずえ』83年版に載っている。国民救援会では毎年、解放無名戦士合葬追悼会を行っているが、東京・青山墓地にある「無名戦士の墓」に合葬された人たちの名簿のなかに岩手県関係者の一人として、

こうある。

長谷川英夫 (1965 (昭和40)
45年共産党に入党し、和賀地区委員に
なった。自宅で口座「マルクス主義」を
発行し、若い人々の学習教育に努力した。
以後同党中部地区委員会常任委員、50
年から同委員長などを歴任した。

65年7月9日没。享年72。

遺妻・規美子

熊谷市大字拾六間209—6

1950年からの地区委員長といえは、
日本共産党はいわゆる「50年問題」で党
が分裂し、混乱していた時期である。当
時のことを知る人たちはじめ、1983
年に長谷川英夫を合葬した人たちもすで
に亡くなっていて、詳しいことは分か
らない。

沖縄慰霊の日 平和の詩

「これから」

宮古高校3年 仲間 友祐

短い命を知ってか知らずか
蝉が懸命に鳴いている
冬を知らない叫びの中で
僕はまた天を仰いだ

あの日から七十九年の月日が
流れたという

今年十八になった僕の
祖父母も戦後生まれだ
それだけの時が
流れたというのに

あの日

短い命を知るはずもなく

少年少女たちは

誰かが始めた争いで

大きな未来とともに散って逝った

大切な人は突然

誰かが始めた争いで

夏の初めにいなくなった

泣く我が子を殺すしかなかった

一家で死ぬしかなかった

誰かが始めた争いで

常緑の島は色を失くした

誰のための誰の戦争なのだろう

会いたい、帰りたい

話したい、笑いたい

そういくら繰り返そうと

誰かが始めた争いが

そのすべてを奪い去る

心に落ちた

暗い暗い闇はあの戦争の副作用だ

微かな光さえも届かぬような
絶望すらもないような
怒りも嘆きも

失くしてしまいそうな

深い深い奥底で

懸命に生きてくれた人々が

今日を創った

今日を繋ぎ留めた

両親の命も

僕の命も

友の命も

大切な君の命も

すべて

心に落ちた

あおの戦争の副作用は

人々の口を固く閉ざした

まるで

戦争が悪いことだと

言っではいけないのだと

口止めするように

思い出したくもないほどの

あの惨劇がそうさせた

僕は再び天を仰いだ

抜けるような青空を

飛行機が横切る

僕にとってあれは

恐れおののくものではない



僕らは雨のように打ちつける
爆弾の怖さも
戦争の「せ」の字も知らない
けれど、常緑の平和を知っている
あの日も
海は青く
同じように太陽が照りつけていた
そういう普遍の中にただ
平和が欠けることの怖さを
僕たちは知っている

人は過ちを繰り返すから
時は無情にも流れてゆくから
今日まで人々は
恒久の平和を祈り続けた
小さな島で起きた
あまりに大きすぎる悲しみを
手を繋ぐように
受け継いできた

それでも世界はまだ繰り返している
七十九年の祈りでさえも
まだ足りないというのなら
それでも変わらないというのなら
もっともつとこれからも
僕らが祈りを繋ぎ続けよう
限らない平和のために
僕ら自身のために
紡ぐ平和が

第33回全国女性交流集会に全ての都道府県から参加しましょう！

第33回全国女性交流集会

◆日時 2024年11月10日(日)～11日(月)

◆会場 蒲郡温泉郷 ホテル竹島

記念講演 今につながる治安維持法体制に決着を
～ まだ生きている治安維持法(仮題)

講師は、治安維持法国際同盟中央本部副会長の小松実さんに決まりました(右・写真)。各地・各所での講演が好評を博しています。「いい話を聞いた。知らないことがずいぶんあると思った。来てよかった」「戦争する国へと暴走する政治の『歪み』がなぜ生まれたかよくわかった」等の感想が寄せられています。来年の治安維持法100周年という節目を、治安維持法がどのように「悪法」であったのか、いま治安維持法体制をどのように打破していくのかなど、お話しいただきます。



■治安維持法犠牲者家族の証言・報告

治安維持法犠牲者小松ときさんのご子息・小松伸哉さんが語ってくださいます(講師と同じ小松の姓ですが、縁戚関係はありません)。ときさんは歌人として戦時下の弾圧について多くの歌を遺しています。

※ふきすさぶ 嵐の音を聞き居つつ 我 留置場に母となるらし

※髪引かれ 頬なぐられても 我が口は堅く閉ざして薄笑いおり

女性が「無能力者」とされた時代にあつて、平和と人権の社会をめざし、不屈のこころざしをもつてたたかった「母」を語っていただきます。



■ビデオ上映 NHKや北海道テレビが、今年の国会請願に参加された102歳の菱谷良一さん取材し、報道しました。

ビデオ上映と菱谷さんを支える北海道の女性が発言する予定です。(写真は、今年5月15日、国会請願時、多くのメディアに取材される菱谷さん)

◆その他、分科会など決まり次第、お知らせいたします。

ご意見やご要望をお寄せください。

◆第32回全国女性交流集会報告集、ご活用ください。



いつか世界のためになる
そう信じて

今年もこの六月二十三日を
平和のために生きている
その素晴らしさを噛みしめながら

少し遠くなりますが、魅力的な内容です。全国の元氣な皆さんからパワーをもらってきましょう。参加費・交通費は県本部が補助します。

会費納入のお願い

10月号「不屈」で請求書送ります。